

<競技注意事項>

1. 本大会は2013年度(財)日本陸上競技連盟競技規則、並びに本大会申し合わせ事項により実施する。
2. 競技用具は、棒高跳のポールを除き主催者の用意したものを使用する。
3. 招集について
 - (1) 招集場所は、北器具庫前に設置する。
 - (2) 各競技とも、最初の種目は招集所で以下の時間帯で行うが、2種目以降は競技場所に集合して点呼を受けること。招集開始時刻と招集完了時刻は以下のとおりとする。ただし、TFC四種の選手はナビゲーターの指示に従うこと。

	招集開始	招集完了
トラック競技	30分前	15分前
フィールド競技	45分前	30分前
棒高跳	60分前	45分前

- (3) 競技を棄権するもの、混成競技から途中で離脱するものは、必ず招集所に申し出ること。
- (4) 混成競技において1種目でもスタートしなかったか、1回も試技をしなかった場合は競技を棄権したものとみなし、それ以降の種目に参加できない。
- (5) トラック競技に出場する選手はスタート地点で出発係から配布された腰ナンバーカードを右腰やや後方につけて走る。フィニッシュ後、直ちに監察員に返却すること。

4. 競技について

- (1) スタートの合図はイングリッシュ・コマンドとするが、フライングは1発失格とはしない。
- (2) 各競技について

<TFC四種競技(非公認)>

独自の得点表により各種目の記録を得点化し、合計得点で競う。

年代、性別等でいくつかのグループに分けて、3種目をローテーションで実施し、最後に1000m(小学3・4年は800m)を行う。

走幅跳は2回の試技で記録は実測、ヴォータックス投は2回の試技とする。

<中学校四種競技(公認)>

男子は110mH、砲丸投、走高跳、400mの順に、女子は100mH、走高跳、砲丸投、200mの順に行う。

ハードルの高さインターバルは、男子91.4cm・9.14m、女子76.2cm・8.0mで行う。

走高跳のバーの最初の高さは、参加選手の状況を見て審判長が判断する。バーの上げ方は3cm刻みとする。

砲丸の重量は、男子4kg、女子2.72kgである。

<スプリントトライアスロン(各種目の記録は公認)>

100m、200m、400mの順で走り、国際陸連の採点表で得点化し、合計得点を競う。

<棒高跳(公認)>

公式の競技会ルールで実施する。バーの上げ方は10cm刻みとし、競技終了後、クリニックを実施する。

- (3) 悪天候等により、競技続行が不可能と総務が判断した場合は、記録会を中止する。

5. 練習について

- (1) 風除室内ではストレッチとダッシュのみの使用を認める。(場所は総務で制限する)
- (2) 競技に支障のない場合、バックストレートの使用を認める。ただし、棒高跳には十分配慮すること。

6. 荷物・貴重品は各自で管理し、ゴミも各団体に持ち帰ること。